



謹賀新年

丁酉一白水星

有宵会だより

第79号
発行所
特定非営利活動法人
岳易館・有宵会
編集 広報部
松戸市新松戸1-64

新年のご挨拶

福田 有宵



新年を迎えまして謹んで
ご祝詞を申し上げます。
NPO法人・岳易館・有
宵会の会員の方々に始め、
一般のご支援・協力の方々、
また各教室の同人の皆様
に、誌上より本年のご多
幸とご健勝をお祈り申し
上げます。

さて今年の干支は丁酉、
九星は一白水星の歳で、
十干の丁とは象形で枝葉
のこと。幹にて草木繁茂
の貌であり、転じて盛ん
なる意味です。その他で
壮年、強しの外に、さそ
りの尾、釘の形から伐木
の声、基石の声とします。
丁祭は孔子の祭り、
二月・八月の上の丁の日
に行い釈奠という。
○夜は丑の刻（二時）
○丁年は満二十歳のこと

○壮丁とは史記は丁壮
○丁稚―デッチと読む。
次に十二支の酉歳は、

象形で徳利の形です。酒
は秋八月黍が成熟して醸
すので、転じて成熟の意
味とする。陰暦八月（今
の九月）、方位は酉、時
刻は午後五時―七時。
鳥に対して酉を日読の
トリというので干支に用
いています。

ここで少々面白いこと
に、丁酉を酺（テイチョ
ウ）の字となり酔いの意
味。

十二支の酉は酒を盛る
器であり、実際の鶏とは
関係がないのです。

元旦のことを中国では
鶏の日とし、七日まで動
物に当て嵌め、その日は
その動物を殺さないなど
の風習としています。

古人の詩で正月には鶏
の名を表したものが多く
といわれ、金鶏の美称で
知られ中国では古く、宗
廟を祭るのに鳴く声が長
いものを選ぶため、これ
を翰音（カンオン）と名

付けたそうです。易経の
中に風沢中孚があり上九
の爻辞に翰音天に登ると
いう語あり。

このように由来や故事
来歴を調べてみますと、
知識や習慣などに興味深
いものを感じます。

畏まつての見識は、鶏
に五徳が備わっているこ
と。平頭冠を戴くのは文
であり、足に蹄をつける
のは武であり、敵前に在っ
ては闘うのが勇であり、
食を見て相告げるのは仁
であり、夜を守って時を
失わないのが信であるとい
う。政略上の言葉なのだ
でしょう。

占いとして参考になる
のは、鶏の骨を焼いて占
うが、鶏の両眼の骨の上
に孔があつて、人の形に
似ているのが出来れば吉
出来なければ凶とする。

トといえば天子諸侯は
亀の腹甲を用い、大夫以
下（卿の下・土の上）は
狗（いぬ）を、その次に
鶏の骨を用いたようです。

日本では悠紀（ゆき）
主基（すき）の新穀を奉
げる土地を定めるときに、
鶏トを用いたとのことが
知られています。

さてさて意外なのは、
日本には元来鶏はいなかつ

たとし、縄文時代の遺骨
に見られないので渡来の
ものとの説あり。

記紀の神代巻に天照大
神が天岩屋戸に隠れたと
き、神々は常世の長鳴鶏
を集めて鳴かしたとい
う。高知県の東天紅、九
州の薩摩鶏であるとの一
説。

伊勢皇大神宮の式年遷
宮の時ですが、いよいよ
御霊代が出御せられる瞬
間に、神官が鶏鳴を行
います。内宮では「カケコ
ウ」、外宮では「カケロ
ウ」と呼ぶとのこと。
このカケとは鶏の古語

で、方言として愛媛県松
山市、佐渡ではカケロと
呼ばれ、カケとはニワト
リの鳴声の擬声語といわ
れています。

それから山陰道にある
祭は、古来鶏も卵も食べ
ないという奇習が残って
いたり、不思議な伝習が
現在でも続いているので
すね。

どの十二支でも名句や
諺など、人の世を諷めた
り警句となるものが多い
のには感心します。

○鶏口となるも牛後とな
る勿れ

○どこの鶏も声は同じ

○鶏が夜鳴くと凶事がお

こる

○一鶏鳴けば万鶏歌う

○家鶏を嫌い野雉を愛す。

○牛刀もつて鶏を割くべ

し

○鶏群の一鶴

○鶏の初卵を飲むと中風

にかからぬ

○牝鶏晨す

○牝鶏うたえば家亡ぶ

○牝鶏につつかれて時を

うたう

○鶏は狸を恐れる

○木鶏―莊子や列子に記
され、人世の教訓で、と
かく争心あれば敵が出る
ので争心をなくするのが
上策という戒めですね。

○鶏合せ―三月三日に清
涼殿の南階で、闘鶏が行
われる宮中行事があつた
とするなど。

こうして酉歳の散策を
したところ、歴史があり、
文化と習慣が絡んできた
り、一筋縄とはいきませ
んが、人に箴言、世に警
句と見ればまた楽しいも
のです。

幕

新年にあたって

牧野 有峰



明けましておめでとう
ございます。

皆さまにおかれまして
は穏やかな平成二十九年
の新春を迎えられたこと
と心よりお慶び申し上げ
ますとともに、旧年中は
有宵会に賜りましたご支
援、ご協力に厚くお礼を
申し上げます。

昨年は地震や火事が多
発し、また、年長者によ
る車のことが多く社会の
大きな問題としてクロ
ズアップされ、同世代と
しては他人事ではなく、
身につまされる思いで毎
回ニュースに耳を傾けて
聞いておりました。

高齢化が確実に進んで
いることの表れではない
でしょうか。

有宵会においても高年
齢の方が多くなつてまい
りました。これまで以上
に若い方々のご協力、ご
支援で更に有宵会を盛り
上げていただきたいと願っ
ております。

さて、今年は景気好調
のように見えますが、他
国の言動によつては経済
的に不況が広がり、社会
不安が多く、大企業も公
社も営業成績も上がらず、
金融界は低迷を強いられ
るかもしれません。

しかし、丁酉の今年は
皆さんもご承知のように、
酉年は新しい事の始まり
で新しい事を進めるには
良いとされております。

有峰会としましても地
域の方にお手伝いを協
力すべく無料鑑定会をす
ることにいたしました。

微力ですが、少しでも
占いを通じて社会に貢献
し、地域住民のご相談に
一役かえたらと思つてお
ります。

まだまだ小さな有峰会
ではありますが、これか
ら有宵会同様、皆さま
方のご指導、ご鞭撻を賜
りますよう宜しくお願い
申し上げます。

有宵会の皆さまのご健
勝とご多幸を祈念いたし
まして、新年の挨拶とさ
せていただきます。

合掌

新年のご挨拶

吉田侑加



明けましておめでとうご
ざいます。

ＺＯ法人 岳易館・有宵会
会員始め関係各位の皆様

におかれましては、つづ
がなく新しい年をお迎え
のこととお慶び申し上げ
ます。

昨年を振り返つてみま
すと、政治経済の世界に
は新しい風が吹いていた
ように思います。スポー
ツ分野では、リオ五輪で
多くのメダルを日本選手
が獲得し2020年の東
京五輪に向けて励みをつ
けてくれました。

自然災害、テロなど痛
ましい事件事故も相変わ
らず多く発生しました。
悲しい出来事は少しでも
なくなつて欲しいと願つ
てやみません。

本年は丁酉・一白水星
の年です。

丁は院の火を表わし充
実して伸び盛りの状態
です。酉は果実が成熟の極
限に達した状態とされて
います。伸び盛りと完熟
した状態なので、頭では
もつと進みたいのに体が
ついていけないというこ
とが起こってくるのでは
ないかと思ひます。

更に丁（火）酉（金）
で相剋の関係ですので、
何かを決定したりするな
らば熟考、相談と慎重に
進めるのが大切です。酉

は取り込むに繋がるとい
われそこから運氣もお客
様も取り込めるといわれ
ております。

関東地方では、毎年十
一月の酉の日に酉の市が
行われています。縁起物
の熊手などを売る市が立
つ商売繁盛を願うお祭り
の側面もあり、多くの
人で賑わっている活気ある
市です。

福田有宵先生も多くの生
徒さんと、台東区千束に
ある長国寺様へ毎年参拝
されています。長国寺さ
までは創建以来、十一月
の酉の日に鷲山寺から鷲
妙見大菩薩の出開帳が行
われ、その後明和8年長
国寺様に鷲妙見大菩薩が
勧請され十一月の酉の日
に開帳される様になつた
との事です。

ご住職の通る声で唱え
るお経を聞いております
と、身が引き締まり背筋
も少し伸びたような気分
になります。

会員各位の皆様には酉
年に因み多くの福を取り
込んで実りある一年とな
りますよう心よりお祈り
いたしまして新年のご
挨拶とさせていただきます。

九星と易断による

二月・三月の運勢

気学では寅二月

二月四日（立春）節入り

破

天道		
7	3	5
6	8	1
2	4	9
生氣		

ア

気学では卯三月

三月五日（啓蟄）節入り

破ア

天道		
6	2	4
5	7	9
1	3	8
生氣		

生氣



一白水星の人の運勢

二月筮一風雷益の九五

三月筮一風火家人の初九
慌ただしさが終り二月
は落着く。なだらかな運
気なのでご機嫌よく週末
を楽しむ。家庭に喜び
金銭の遣り繰りはスムー
ズにいく、仕事や交渉事
は欲張らず妥協、家庭も
健康も安心無事なとき。

三月は安定を望むのが
良く交際上手に人に接す
る。些細な噂や予想外な
出来事は驚くが軽く済む
今後の対策を立てる知恵
を借りる。親子は意地張
らず、風邪と疲れに用心。

二黑土星の人の運勢

二月筮一地雷復の上六
三月筮一雷風恒の上六

二月は物事がスムーズ
に発展しないので慎重に、
焦りは禁物。仕事面の変
化には乗らず旧業を守る
金運は弱いので自重。日
程プランを検討し、文書
上のトラブル避ける。腰
痛、頭痛、血流血圧用心。
三月、目標に近づくの
で仕上げる力を入れる。
公私文書の処理、対人面
は公平な応接など細部に
配慮を。緊縮財政で締め
ていく。親しく仲の礼儀

忘れず。風邪と間接予防。

三碧木星の人の運勢

二月筮―火天大有の九二

三月筮―風雷益の六四

二月は多忙でも充実感あり、公私共に順序良く済ませる。独断にならず気配り大切。人の集まる場所での貴重注意。用件の見通しは延びやすい。三人組の交際は難問含む。循環器、視力と歯の対策。三月は慎重運です。心配事の善処、誤解の解消など見通しが付く。頼まれ事は内容によりけりで内密の話は深入り避ける。親子の緊密さと愛情が宝。眩暈、神経痛、足元用心。

四緑木星の人の運勢

二月筮―山天大畜の九二

三月筮―山水蒙の六五

二月の寒さが応えるので心身を守る。身辺に苦労があるが人から喜びを得る。生活習慣がマシネリ化で改善を。愛情面は変らぬ心を求めていること。予定外出費あり。冷え風邪、足腰疲労など。三月は着実に一歩を踏み出す。何事も急がず一事専念する。業務の空回り準備不足に目配り、マイホーム良く子や孫中心

進める。収支に手堅く。食事定着、筋骨の疲労。

五黄土星の人の運勢

二月筮―水風井の九三

三月筮―風水渙の九五

二月は現状維持、マンネリにならないよう心掛ける。言葉の綾からモメやすく口難注意。過去の古傷の浮上など冷静に処理。仕事は小さくても几帳面と、家族の絆を強める。胃腸と風邪再発注意。三月は忙しく気疲れ多し。先々の予定が変わるので早めに処理、新しい事柄は興味深いアイデアを生かす。人に良いことをしてもお節介になるかも。胆肝疲れ、過敏性反応。

六白金星の人の運勢

二月筮―水雷屯の九五

三月筮―雷水解の初六

二月の方針は前向きで取り組むことに熱心。協力者を得て成果を上げる。諸事に段取り次第なので先手を取ること。交際面は短所より長所を見つめる。秘密事表面化に用心。気管支、神経、皮膚過敏。三月は公私に充実するので收穫あり。調子に乗り安請合いして荷が重い。住居の問題は慎重に進め

る。仕事信頼で結ばれるので吉。出費あり堅実に。風邪、足腰、怪我用心。

七赤金星の人の運勢

二月筮―水火既済の九五

三月筮―雷天大壯の六五

二月は平穩に行くのが良く無理をしない。小事故なので大欲出さず。出番が来たら一気に進める。人に七癖あり相手に合わせるのが交際術、しかし噂が出るとき。金運無難。体調は良く回復も早い。三月は自分のペースで良いが周囲の気遣いを忘れず。仕事の停滞と対話不足気味。始めよく終わる。悪しとまらないように。何事も長引く傾向を含む。胃腸系、筋肉疲れの手当。

八白土星の人の運勢

二月筮―雷山小過の初六

三月筮―火風鼎の上九

二月は自重運、無理をしないが無難に過ごす。負けず嫌いの自我を出さないでソフトに接する。仕事は背伸びせず肩の力を抜く。長引く問題苦勞多い。食生活を大事に体力づくりと内臓診察を。三月は先の見通しがつく。停滞中の用事の処理。仕事は状況に応じて変え

てみる。金運は緩やかにアップ、協力者を得てチャンスをつかみ漸進吉。

血流血圧、脳動脈安定。

九紫火星の人の運勢

二月筮―雷火豊の六五

三月筮―火雷噬嗑の六二

二月は活気が出て意気上がるが先走り過ぎないこと。キーワードは気力充実、どの問題にも名案と視野が広がる。家庭に喜びが安堵する。出ても戻る金銭で益あるとき。健康は適度の休養が肝心。三月は転ばぬ先の杖で安全策。小さな目標にベストを尽くす。努力が認められるとき。好条件は哀があるので金銭注意。物も言いようで角が立つ。こだわり捨て気合変える。口腔、歯、呼吸器に注視。



十一月の有宵会報告

八川林加

十一月二十六日(土) 勤労福祉会館ブルミエにおいて、NPO法人岳易館・有宵会定期例会が開催されました。今回は、福田有宵先生と三名の先生方から、平成二十八年がどのような年であったかを年筮と照らし合わせながらお話を頂きました。



「今年一年 易のこと」

菅原有恒先生

【年筮の考察】

福田先生から頂いた年筮と、自ら筮したものを比較して三つの観点から振り返りたいと思います

(年筮) 風雷益 九五

(福田先生筮)



風火家人 九三

(菅原先生筮)



〈盛運・集大成の年〉
どちらの卦も盛運といえます。また、内部の充実を図るという意味があります。私は書家でもあり、毎日欠かさず易を隷書で書き続けておりますが、一年で手がけた書の数は、三百枚を超えました。今年、これまでの集大成として三月に美術館で大きな展覧会を開催し、易の六四卦を半切(一・一五×四・五尺)の大きな紙に書き上げ、多くの方にご披露致しました。また、私は漢詩と、平仄(ひょうそく)字典の研究をしております。平仄字典は、歴史が古く、江戸時代の林古溪先生から私の大先生である石川忠久先生が改訂を重ねてきました。しかし、自身の研究では、更に違いがあると発見したことから、二年の月日を費やして辞書・字典を六冊ほど比較しながら調査しました。漢詩では、平仄字典の研究結果が成果物となりました。

〈後継者育成への思い〉
自身も喜寿を迎え、体力に不安を覚えることがあります。今年、意識的に取り組んだことは、後継

者の育成です。今年の年筮には、人、家族、仲間を大切にするという意味があり、後継者を育て来年以降から順次、世代交代ができるよう準備を進めています。

〈二病の併発〉

十年來の持病である狭心症は落ち着いていたものの、今年になり初めて膝と股関節を悪くしました。山歩きが原因だと思われ、二つめの病が表れたのです。来年以降、リハビリをしながら段々とよくなるようにと願っております。

【運勢は繋がっている】

いいことも悪いこともあった一年ですが、反省点は今のうちから取り組むべきと考えます。運勢は、今年の運氣の中に來年の運氣が含まれているからです。これまで十四年ほど調べてきましたが、今起きている事象は、三年前からその影響が出ていることがわかっています。つまり、運勢は繋がっているものとして捉え、前もって取り組むことが出来る、良い運勢が廻ってきた時にチャンスが掴めるようになるのです。

「一年の回顧」

伊藤璃香先生



今年は、本命の八白土星が坤宮に同会しました。が、被同会の五黄土星により暗剣殺が付き、さらに艮宮に歳破が付く年、どうなることかと年初から思っており、また（以下、「暗剣」「破」と表記）。私は、予見した通りに事象が表れることが多く、福田先生からも「素直な人にはその通り表れる」とご教示を頂いております。

【有宵会二十周年記念】

四月十日。日比谷の松本楼にて有宵会二十周年記念式典が盛大に行われ、総勢百五十名の方にお越し頂きました。有宵会はいよいよ方々が多く集まる会であり、事務局長として

運営していく上で困ったという記憶がありません。松本楼の支配人からも「この会はとても素晴らしいですね」と、大変嬉しいお褒めの言葉を頂いたほです。

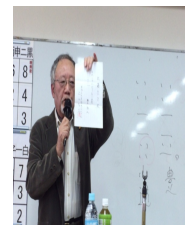
【運命には逆らわず】

有宵会二十周年など、仕事の面ではよいこともありましたが、運氣はその後も素直にやってきました。今年の八白は、坤宮に同会していることもあり、胃の調子が思わしくなかったことから病院に行こうかと思っていた矢先、癌で闘病中の主人が肺炎を併発し、十一月から入院となりました（十一月は、二月に続き年月盤が二黒中宮）。それからは、毎日のように病院に通う日々。慌ただしく過ごす中でも「嗚呼、私は素直だから」と、自答しております。

たとえば、運氣の中に暗剣や破が付いていても、運命に逆らおうとはせず、その日、その日を素直に生きていく。そうすること、これまで勉強してきたことも生きてくるのではないかと考えるのです。

「年筮が示したもの」

佐藤宗眩先生



〈年筮〉

雷火豊 初九

（福田先生筮）



「今年の年筮——これは何か意外なことが起こる」それは、すでに年筮の瞬間から始まっていた。福田先生から頂いた年筮書には、何と、私の名前の文字が間違っ書かれており、宗眩の「眩」が「玄」と記されていたのです。何十年間の中で初めての出來事であり、「これはもう何かある」と思わずにはいられませんでした。雷火豊から雷山小過に之く卦は、志を同じくする人と共に協力し合っこそ物事が成立する意味を持ち、決して一人で前に進む意ではありません。八月になるとその事象が露わになりま

す。福田先生は、有宵会の理事長であると同時に、一般社団法人日本占術協会の会長でもあります。私は占術協会の常務、財務、財務を兼任しております。この度、ヤフーからの依頼で占術協会の占サイトを作る事になりました。これは、占コンテンツの制作会社が主體的となつて掲載内容を含む制作全般を担当し、ヤフーに占術協会のタイトルを掲げた占コンテンツを立ち上げるというもの。最近の占いは、占いコンテンツやアプリを含め、靈感・靈視的な内容を題材とした、いい加減なものが横行している背景があります。福田先生は、このような状況を非常に案じておられます。業界として占術は、学術を根源とする旨をその基本とし、一般的に認知されない内容では意味がないと考えておられます。しかし、そのような思いとは裏腹に問題が起きます。コンテンツ制作会社が主體的に進めた結果、売れることだけを目的とした内容が提示されたのです。法務的にも許可できない内容で

あり、場合によっては裁判沙汰に発展する恐れが懸念されたため、不許可の回答をしました。しかし、コンテンツ制作会社側からは、「予め福田会長のご意向を伺い賛同を得た上で制作をした」との主張があり、話し合いは物別れとなります。この時、年筮の雷火豊が頭をよぎりました。「ここは、孤軍奮闘しても仕方がない。後は会長に任せよう」争いを回避させるには、自分がそう思う他ありませんでした。福田会長には、「現時点の内容でサイトを運営すれば恐らく問題が生じる。協会の立場として後付けであつたとしても理事会で頭を下げながら承認を頂かななくてはならない」と、お伝えしたのです。

〈職業としての占術士〉

現在、占いを提供する団体には多くの問題が起きている。靈感商法的な種もその一例ですが、たつた一、二年程度の勉強歴しかない者が一人前の占い師と称して商売を成立させている。このような現実があるのです。現在、ヤフーの占サイトには、協会が占術士として認定

した二十名の会員が掲載されています。今後も掲載される会員は増えていくことでしょう。占い師と聞くと、うさん臭いイメージがつきまとう、この様な現状を何とか打破し、本来あるべき姿で社会に認知してもらいたい。そして、職業の一覧に占術士が加わり、高校生や大学生などの若い世代にも一般的な職業の一つであると認めてもらいたい。このような考えの元、福田会長が先頭となり、ヤフーの協力を得て占いサイトでの活動を始めたのです。これからも、皆様のご協力を頂きながら努力を重ねていきたいと思っております。そして、次の世代に受け継いでいく。それが私の願いでもあるのです。私の一年は、意外な出来事の連続であり、その対処に苦慮する一面が度々ありましたが、引き続き頑張っていきたいと思えます。

「回顧録」

福田有宵先生



三名の先生方にお話を伺いました。一年という月日は、決して軽くないのです。様々なことを踏みしめて此処まで来ており、皆様と共に学んできたのです。私も皆様と同じ立場であり、同志です。同志とは、共に導く存在でもあるのです。皆様とはご縁があり、学び舎の中で共に歩んで参りました。易で例えると天火同人の卦がそれを示しています。菅原先生は、年筮を一年間だけでなく、三年間の年筮を比較してその繋がりをみる、というお話でした。かつてこのような提言をされた方は外部の団体でも例がありません。是非、今後の研究課題として取り上げてみたいと思った次第です。事実、繋がりとはいものはあるのです。例えば、気学のご説明をする際、私は三という数字を常に用いております。三日、三カ月、三年といった具合です。「石の上にも三年」という諺がありますが、運命学の中でも非常に重要なサイクルであると捉えております。ところで、年筮は、冬至の日に執ることが古くか

らのしきたりになっております。今年は、お陰様でNPO法人・岳易館有宵会が二十周年を迎え、皆様と思い出の一頁を築くことが出来ました。佐藤先生におかれましては、記念文集の全てを纏めてくださるなどのご尽力を頂きました。この様に、多数の方々のお力添えを頂いておりますが、これらは二黒中宮の年回りに関係する動きとみてよいでしょう。また、この二十年の間には、方々の神社、仏閣にお参りをして参りました。さて、それは何故でしょうか。易経や占術を学んで参りますと、先を見通せるようになり、一般の人に指南が出来るようになります。増長慢という言葉がありますが、結果として、態度が増長してしまうのです。誰でもそうですが、自分の頭上に色々な方の存在があれば、静かになります。頭上には、親がいます。また、先祖もいるわけです。頭上にあるものの姿とは何であろうかを学ばなければ、この学問は生きてこないのです。もっと分かり易く言えば、「生意気になる、

それではいけない」という戒めを込めて、神社、仏閣へのお参りが非常に大事であると思うのです。これまで、度々お参りを繰り返して参りましたが、その時の記録を伊藤先生が二十周年記念文集の中で纏めてくれています。読み返しますと、所々で様々な感銘を受けた記憶が蘇ってきます。御祭神といつて、神の姿があります。常々、その神の姿を見たいという一心で長い間修行を続けております。また、御神体という言葉があります。神仏が他の姿に化身して現れるということに気が付いたのです。神仏がどのように現れるのか。これを一つの楽しみとしてお参りを重ねております。例えば、由緒のある所に行きますと、感応を受け、神様がどのようなお姿で現れたかを感じ取ることが出来るのです。これまで、会報の中でも紹介をして参りました。本日は、気学と易学の二点でお話を進めて参ります。一年を振り返るといことは、来る一月には来年の予測をする事に繋がります。この予測をする際の材料

が回顧にあたるのです。気学は簡単な様に見えますが非常に奥の深いものがあります。易学については、神社暦の方にも掲載をして頂き、皆様に見て頂いております。

【平成二十八年の日本】

（中筮法）

本卦 水雷屯
之卦 風地觀

水雷屯の卦では、日本を始め周囲の関係はスツキリとしたものが得られません。国内の政治経済では、打開策がなく頭打ちの状態で、相変わらずの一年となる予想でした。また、屯卦は、「物事はじめて生ずる」意であり、子どもの意もあります。よって、少子高齢化問題について抜本的な解決が期待できない時といえます（実際、待機児童の問題は引き続きの課題となっており、高齢者による問題の数々も具体的な解決は先延ばしとなっている）。天候は、変化が多く、季節により注意が必要とし、年初より冬季は厳しく、雪氷被害が懸念されました。また、春夏の地震や噴煙火山の恐れ、秋は台風豪雨の水

害も懸念されてきました（実際、二月に桜島噴火、四月の熊本大地震、六月の函館での地震、八月には、北海道から沖縄まで、台風が三連続で上陸し、各地で風水害が相次いだ。また、十月、十一月に、鳥取、福島で大規模な地震が起きた）。

【年盤をよむ】



平成二十八年は、丙（火）申（金）の二黒土星中宮の年でした。古くは、干支が主に用いられており、九星が存在するようになってからは明治以後になってからです。また、東洋の基本となる哲学は、天地人からなる三才です。この内、九星は人であり、社会であり、人間界を表しています。今年の二黒土星は、温故知新であり、歴史や古いもの、値打ちのあるものを検討し、繋いでいこうとする時です。よって、古い物の再来がある時です。例えば、縁談では、復縁がある時な

どと言えるのです。影響を受ける最大のポイントが中宮の星にあるのです。また、十一月（己亥・二黒中宮月）には、五十四年ぶりに積雪があり話題となりました。五十四年前は、昭和三十七年壬寅・二黒土星中宮の年でした。九年ごとで一廻りとすれば、六廻りの周期です。十二廻り（十二支）の半分の周期であったことはチェックポイントとなります。

〔J R博多駅前の道路陥没事故〕
また、同じく十一月には、J R博多駅前の道路陥没事故がありました。大地が暴れたわけですが、九星盤には、二五八ラインと呼ぶ線路があり、今年、二黒を中心、良宮に五黄、坤宮に八白があり、全て土星が回座しています。このことから、大地の中でも地の象では、大地を揺るがすほどの問題が表に出て来ると予想できます。八白の象意では、崖崩れであったり、土砂が崩れて流れたりといった作用を見て取れます。事象の判断は、定位における星の配置がどのようなものであるかで判断する

のが基本です。陥没は一白で表しますので、一白がどこに廻っているか、坎宮にどの九星が同会しているかで判断します。坎宮の七赤にも陥没の象意があります。次に道路は三碧、六白で見ますが、主は、三碧の方で見ます。今年、三碧が乾宮同会です。公道などの立派な道路を示しています。ところで、J R博多駅前の道路陥没事故は、地下鉄工事が関係しているといわれ、人災との見方があります。陥没事故は、大成建設が担っていた工区で発生しました。被害が出ておりますので、今後、当事者である福岡市と大成建設には賠償問題が懸念されます。責任の所在で笠を立てたところ



福岡市が風沢中孚・六四となり、大成建設の方は、水山蹇・九五となりました。この結果から、表裏の象が表れていることがわか

ります。表となる福岡市の卦には図面の象意がハッキリと出ています（大離の象）。ただ、六四は、図面があり確認もしているが、チェックが甘くなる点に注意しなければなりません。一方、大成建設は、水山蹇で、裏（地下工事）が示されています。よって、大成建設の方に責任の所在ありという見方が有力であるといえます。

〔高齢者による自動車運転事故が多発〕

高齢者による自動車運転事故が集中的に起こり、ニュースになりました。この現象は、車のせいではなく、運転者の問題です。暫くは注意が必要となり、平成二十九年・一白中宮の年も続くこととなります。その後、九紫中宮年で行政による対処が行われるよう進むと観ています。

〔東京都の盛土問題〕

盛土問題も古い問題が露わになったわけですが、刑事事件まで発展するかを考える場合は、法律問題を震宮と離宮で観て判断します。この問題は、副知事が引き続き対処に当たることになっており、

刑事事件に発展するまでの要素はなく、一旦の決着がついた形で落ち着いていると観ています。

〔美浜原発の再稼働問題〕

二黒中宮は再開の意がありますから、美浜原発の問題を捉えた際も、再稼働ありとすぐに判断できません。また、古いものが大切にされる時なので、老朽化したからといって捨てるわけにはいかないとなります。

〔配偶者控除の拡大案〕

政府・与党は、配偶者控除を百五十万円まで拡大するとの方針を打ち出しました。二黒には、配偶者との意味もありますが、離宮・六白が回座している間に決着を出したいところですが、時期を逃せば、その後の決め手を欠くことになるでしょう。

〔温暖化現象について〕

日本は、パリ協定での批准に出遅れましたが、地球の温暖化はどうなるでしょうか。例えば、小説家の星新一さんならば、「あと十年で終わりだ」などと書くかもしれません。北極にある氷山が全て溶け出したとしたら――。学者の間でも賛否両論です。異なる意見をぶつけ

ながら考察することは、研究にはとても重要であり必要なことです。

【質疑・応答】

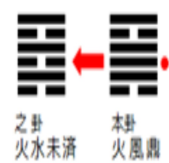
〔質問〕二黒中宮の年から温暖化をどう読み解くかをお聞きしたい。

〔福田先生〕長い間に渡って温暖化が叫ばれていますが、二つの観点から考える必要があります。一つは、地球規模で考える。二つ目は、日本の姿勢はどうかということです。社会は何を要求しているか。土壌の変化は、二五八ラインのところで判断し、気温の変化は震宮で観ていきます。気象の変化は、夏と冬の判断が特に重要となります。

例えば、海水温が一度上昇するだけで魚介類の生態系に影響を及ぼします。一白中宮年以降から九紫中宮年にかけては、海水温上昇による台風の高頻発化とそれによる風水害が特に問題視されてくるでしょう。自然界では、温暖化で生物の体質が敏感になります。人間は、環境変化に適応する能力がある点で、丈夫な体質であるほど温暖化の変化に気が付かない傾向があります。気管支系、心臓系

統の体質を持つ方は、気象の変化に敏感となります。

【月筮による運勢判断】
福田有宵先生
〔占例・Y様〕
十二月 火風鼎 九三



内部から変えていきましよう。忙しく過ごしている方に火風鼎が示されます。日常生活では、家の中の整理整頓が必要な時です。また、月の中旬頃にかけ、友人とのつきあいで会食の予定が出来ます。ただ、食欲はあるが、きちんと噛み砕いていない様子があるのでゆっくりと食事をするようにしましよう。運気は、初旬が忙しく、中旬から運気が安定してきます。一月 雷地予 六三



予は、予測をすることです。十二月までの混沌から一転して楽しみがあります。旅行も期待できます。

身近な所では、家の水回りに注意を配る時です。

雷地予は、四文を目印とし目標と観ます。三爻が示されているので、うまく運ばないところがあるものの、一年のことや今後のことを真剣に考えるようになります。大きく捉えますと、やりたいことがあり、平成二十九年の三月頃から新たな第一歩を踏み出すでしょう。連れはなく、自分の道を歩きます。

十一月の例会は、福田先生と三名の先生方による年筮と一年の振り返りとして実際の出来事、また、研究成果を拝聴できる貴重な時間でした。有り難うございました。

八川林加 「岩槻大師様鑑定会」



伊東 直子

恒例の鑑定会、一月三日。私にとっては正月、五回目の鑑定会である。岩槻大師様に到着。去年とは違い綺麗になっていた。

る。新しい年に思いがけず、嬉しい気分を味わうことができた。

改札を出ると東西二方向の階段になっていた。方向音痴の私は、まずそこでつまずく。階段の上から見覚えのあるものを探すと、いつもの人形店の看板がありホッとします。

鑑定開始の時間には余裕が有ったので、いつもと違う道を歩くことにする。(方向音痴なのに知らない道を行きたがるとい癖がある。ただ、その感が当たると滅茶苦茶楽しい気持ちになる。)

人形町通りを歩くと「人形学院」が在った。人形の街だもの：あるよねえと納得しながら行くと、高島易断の鑑定所を発見。「あつ！あるんだあ。あつてもおかしくないし：ふーん」

と占いは好きなので興味はあるが、時間も無いし入る勇気もない。

そうこうしていると、体内の方位磁石がそろそろ大通りに出ることを示してくる。こつちかなと不安気に角を曲がると見慣れた岩槻大師入口の看板が左前方に見えた。山門をくぐり、日差し

が心地良いお寺の境内に入ると、お守りや達磨などの縁起物が並ぶ。正面に進むと、数名の参拝者が思い思いの場所にお線香の煙を当てている。

本堂にご挨拶をして、爽やかな風の通るお庭を見ながら鑑定の仕事へと気持ち切り替える。

鑑定の部屋には、今日のお天気のような爽やかな気をお持ちの前田先生がいまして。先生とのお縁も三年目です。

お正月も三日になると参拝者もゆつくりとお参りできるようになります。

今回の鑑定は早目の時間からのスタート。相談の中身は、かなり深刻な家族間の問題で、二人の姉妹が口々に長年の思いを言っている。気学で説明しながら伝え、二人が有る程度納得できるようになるまでかなりの時間を要した。少しは気が軽くなつて、二人の表情が来た時よりも柔らかく見えたので一安心。

鑑定所ではいつも思うことだけれど、自分とご縁のある方が来て、その内容はやはり自分が体験してきたことや今の自分の抱えている問題などを相

談される。答えながら過去を思い出したり、相手を通じて自分に言い聞かせたりすることもある。

不思議な力を感じる。その人に乗り越えられない試練は来ないと、つくづく思う。

リピーターさんが顔を見せた。実は去年は姿が見えずに心配していたが、なんと結婚相手と一緒に報告に来てくれた。初回の相談が「彼女に五年後にあなたと結婚すると決めたと言われたのですが、二回くらいしか会っていないしデートもほとんどしていないし：」騙されているのかと不安そうだった。気学では相性が良かったので大丈夫と伝えていたが、この時、直感の強そうな彼女を見てとても納得してしまった。

やっぱり人の笑顔って素晴らしい。鑑定の機会をいただいて、ありがとうございます。今年も感謝で始まります。

富士山登拝記

湯川 雪路



八月に富士山登拝を致しました。

富士山には庚申の年に誕生したという伝説から庚申の年を御縁年とし十二年に一度訪れる申年を小縁年と呼んでいます。で昨年は「丙申小縁年」で他の年より御利益が高いとされています。そして昨年は、富士山本宮浅間大社奥宮の改修工事が完了し新しい御社殿での参拝となりました。

当日の天候は不安定だったのですが、2・3日後に台風がくるということもあり登ることにしました。

最初風が強くその後霧雨になり、しばらくすると雨が降ってきたのでレインウェアを着ることにしたのですが霧雨の中長時間歩いたので足元がかなり濡れてしまっていました。レインウェアを着ても一度濡れてしまったものは乾かず九合目に着いた時には体がガタガタと震えてきたので小屋で休憩することにしました。

雨も強くなり周りの方々は登るか下山かを迷っていました。さすがに九合目までくると結局は皆さん登ることを決断され

ていました。自分もその中の一人です。

九合目からは酸素が薄いかから呼吸が乱れてきたので休憩しながら行動しようとしたが、ちよつとでも立ち止まると一気に体が冷えるのでゆっくりでも止まらず進むことにしました。

そしてついに、山頂に到着！

それから浅間大社奥宮で正式参拝をいたしました。が、じつとしていたのか体が震えてきました。しかし、玉串奉奠で玉串を受け取った瞬間、震えがピタリと止まり玉串奉奠を終えた後また震えだし、最後に御神酒を頂くのですが震えた手で頂くところぼしてしまふと思ひ、手が震えていることを伝えると少しだけにしますとおしやつてくださったのですが、ここでも盃を手にした瞬間に震えがピタリと止まったのです。御神酒を口にすると体の中に何かが入ったのか、体の中の何かが出ていったのか自分の「氣」が変化したような感じで楽になりました。この出来事は、何であつたのか不思議です。

正式参拝後は久須志神社の参拝やお鉢廻りの予定でしたが、山頂はあくまでも通過点ですので楽になった体は山頂ではなく下山に使わなくてはならないと思ひ下ることにしました。下山を決断したことで、あの「氣」が変化したような感じは「正氣」になりましたのではと思っています。

あの日は途中からでも下山すべきでした。昨夏は毎週山に登り、その疲労から正しい判断・行動ができず、富士山用にと購入していたものも忘れてきたなど準備段階からダメだったようです。でも、その後反省し翌月の遠山の登山を延期し体を休ませ、また日帰りを一泊にしてゆったりと行動する計画に変更するなど見直しました。

今回の出来事は、このような私に木花之佐久夜毘売命からお導きを頂きお力を与えて下さったのではないかと思うと感極まっています。

日本最高峰に鎮座されている神様は、尊いと身体の中から感じる事が出来ました。

今年も登ります！もちろん一番の目的は、自身を見つめ直すことが出来たことへのお礼参りに富士山登拝を致します。

平成二十八年十一月記

湯川雪路

笠山荒神記

福田 有宵



奈良の大神神社、笠山三宝荒神社へお参りしましたのは、昨秋の九月二十七日〜二十八日でした。

湯島聖堂教室の有志が集まり、龍神会を設けたことで笠山荒神様と決まりました。周易・観相の大家で大阪の重鎮、故石本有孚先生は深く関わり、笠山三宝荒神縁起の明文を扁額に奉じなり、参道に鳥居や灯籠の建立あり。参拝のご縁は彦根市の石田宗己先生で、東都の十二名で出かけた次第でした。

当日、上り坂の参道をしばらく歩き、立ち止まった所に、石本先生ご寄進の灯籠、別の下り坂で立

ち止まると、その鳥居の柱には名が刻まれ、二つを発見できたことはまさしく奇跡であり、石本先生の心霊に導かれたようでした。

参拝記は龍神会々長、泰山林翰先生の紀行文が楽しみです。

合掌

龍神の旅

泰山林翰



龍神とは、神であろうか、神の使いであろうか、龍とは、広辞苑によると創造の動物、インド神話で蛇を神格化した人面邪神の半神、大海や地底に住し、雲雨を自在に支配する力を持つとされる。

仏教では古くから仏伝に現れ、また仏法守護の天竜八部衆のひとつとされた。ここで竜の字が出てくるが、漢辞海などによると龍の新字体は竜であり、康熙字典では龍そのものが部首に配置され16画をなし、龍古文竜と

あり、同じ文字として取り扱われています。

易経では、上経乾为天初九潜龍勿用、として真つ先に出てくる生き物で、初九から用九にわたり龍を元にして各文が物語のように綴られています。説卦伝では震為龍とし、鈴木由次郎先生著「易経」によると「龍はよく水中に潜み、またよく雲に乗って天上に飛ぶ。その変化は計り知ることができない。ゆえに乾の卦に龍をいう。震の卦は乾の初画を得ているので、剛にしてよく動く。ゆえに震の象を龍とする。」と述べられています。

福田先生のもとで易経を学ぶものとして、龍の姿は、学ぶ者のあり様にながっていくのではないかと、今回の参加者の集まりを「龍神研究会」と旅に出るにあたり名前をつけたのです。

今回の旅行は、そもそも仲間の一が笠山荒神様の話をしているとぜひそこへ行ってみたいということになり、合わせて大神神社（おおみわじんじや）の御神体である三輪山登拝をとの御意見をいただきました、視察研修旅行

として実施することとなりました。メンバーは湯島聖堂斯文会で福田先生のもと易経を学んでいる有志11人です。

行先は決まりました、時期は笠山荒神の秋の大祭（9月28日）に合わせ実施することとしました。

行先である笠山荒神は、光三宝荒神・立里荒神と共に日本三大荒神の一つとされ、3千年の昔9万8千8百8体の眷属を率いて、笠山のすそ野にある山辺の道に散在する社寺の三宝（仏・法・僧）を守る神として祀られてきた古来からの荒神様です。

大神神社は、古事記や日本書紀に登場し『古事記』によれば、大物主大神（おおものぬしのおおかみ）が出雲の大国主神（おおくにぬしのかみ）の前に現れ、国造りを成就させる為に「吾をば倭の青垣、東の山の上にいつきまつれ」と三輪山に祀られることを望んだとある由緒ある神社で、古

来本殿は設けずに拝殿の奥にある三ツ鳥居を通して三輪山を拝するという原初の神祀りの様を伝える

我が国最古の神社です。

9月27日大祭の前日に三輪山登拝を行うこととしお天気が心配でしたが、一の鳥居から参道へ向かうこととしました。曇り空の中、雨の代わり汗をかき濡れながら往復3時間の登拝を途中休み休み足膝と相談しながら行うこととしました。山頂付近の奥津磐座（おくついわくら）では、神主も務める長瀬先生の祝詞を受け、頭を深々と下げ、御神体から受ける気やパワーを身体全体に受ける感じが、それぞれが何かを感じることができたのではないのでしょうか。

御神体の木々もよく来たよく来たと言葉を揺らしながら歓迎しているようでした。

御神体から登下拝した所に狹井神社（さいいんじや）があります、そこで湧き出る神の水は、万病に効くという薬水が湧き出る井戸であり、その水は下拝した私たちの疲れた身体に染み渡り、身体中から疲れがなくなるような感じがしました。また二の鳥居を出たところで食べたソフトクリームは身体中に元気を与え

たような気がしました。

翌日9月28日は笠山荒神大祭の日です。笠山荒神までは狭い山道をタクシーで走ること約30分の道のりです。荒神様の参道を歩く途中、石本有孚先生がかつて奉燈された灯籠を福田先生が見つけられ思わず全員で合掌、荒神様では大祭の準備のためお祓いの時間が限られており、先ずはお祓いを受けることとしました。受付で一人ひとり申込書に願いごとを書き、お祓いでは願いの種類ごとに別々の祝詞があげられ、神主さんからは石本有孚先生の話をお伺いすることができたのです。

直接石本先生に師事したことのある金原先生も感慨深げであったと思います。

笠山荒神には関伽井不動（あかいふどう）があり、そこには空海が水行をしたという池があり、す、弁財天社と共に黒龍社・白龍社が祀られています。置かれていた大きな石の中に龍が見えたとか見えないとか、私たちの会の名前に相応しい場所であったと思います。時間の関係でお神輿の

お渡りを見ることはできませんでしたが、荒神様の入り口で笠山蕎麦をいただき奈良市へと向かいました。

奈良では興福寺において国宝の五重塔・三重塔が初の同時開扉が行われており塔の内部から天平の文化を見学させていただきました。

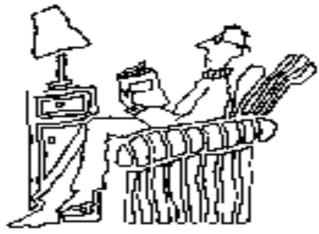
奈良駅へ戻ると大雨のためJR奈良線が不通となり、急きよ振り替え輸送の近鉄奈良駅へバスで移動、近鉄特急京都駅行きに何とかぎりぎり間で間に合い、予定の新幹線に乗り無事帰宅することができました。

今回の視察研修旅行にあたっては、最寄駅であるJR三輪駅近くの宿の部屋が限られており、大勢の方に声をかけることができず申し訳なく思っています。総勢11名での旅行となりましたが、参加された皆様方のご協力とその場対応の妙味に感謝と御礼を申し上げ報告といたします。



自己鍛錬の妙薬①

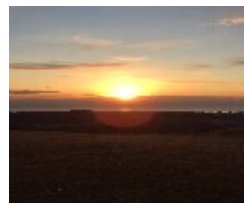
人間はどんなことが起こっても、自由自在に対応できる適応力を不断に養わなければいけない。それには絶えず自力を養成しなければならぬ。薬の力とか、医者の方とか、他物に依存しておつては段々に自力が弱くなります。自然の体力、生命力が弱くなつてしまします。どんな代用品も自然の生命力に勝るものはありません。



自己鍛錬の妙薬

身体ばかりではない。生理ばかりではない。精神、心理という意味における性理、命理もすべてそうです。

そんなことから、病弱とか、愚鈍であるとか、貧乏であるとか、多忙であるとかいうことは、逆に自分自身を鍛錬する非常な妙薬、否、妙薬以上のものである。



NPO通信

賛助会費として先の方々からご寄付を頂戴致しました。（敬称略・順不同）

半田晴詠・久保田恵都予・斎藤幸子・堀内憲子・小野舞子・安藤忠男・佐藤宗弦。

鑑定会の報告

岩槻大師様

一月一日 佐藤宗弦・山田倫子
二日 杉本幸子・福田侑俊・川又早苗
三日 伊東直子・

前田龍徳

本年はリピーターさんも多くなり、初詣と占いが定着し始めた感じでした。

尚 鑑定料金は全額お大師様に志納金としてお納めいたしました。

品川プリンスホテル

二十八日十二月三十一日 横小路結華・

二十九日一月一日 美園環希

半田晴詠・濱野延珠・前田龍徳

一月二日 佐藤宗弦・河野有泉・久保田恵都予

今後の鑑定会のお知らせ

◎三月五日（日）

江東区文化 センター（東陽町）

◎三月十二日（日）

江東区総合区民センター（西大島）

らん祭

◎三月二十五日（土）

みらいフェスタ松戸

午前十時半～十五時半 以上の会場で無料鑑定会を開催しますので、是非

共御参加頂きご協力をお願い申し上げます。

（人員が足りません）

事務局だより

明けましておめでとうございませう。

本年もよろしく願いを致します。

次回の例会

三月二十五日（土）

場所 足立区勤労

福祉会館「プルミエ」

時間 午後五時三十分より午後八時

三十分まで。

講演

佐藤宗弦先生

「現代風水について」

講演

福田有宵先生

「方位の吉凶、相談事アラカルト」

行事予定

例年通り

初詣を二月に予定いたします。

決定次第ご連絡致します。

昨年十一月の有宵会には六十七名の方が参加されました。

伊藤 璃香

編集後記

本年も宜しくお願い致します。原稿お待ちしております。

編集長